

(介 33)

平成 27 年 6 月 8 日

都道府県医師会

担当理事 殿

日本医師会常任理事

鈴木 邦彦

国立長寿医療研究センター・東京大学高齢社会総合研究機構
「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」のご案内について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

現在、各地域におかれましては、それぞれの地域特性に合わせた地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みを進めていただいていることかと存じます。

また、本年 4 月 2 日に本会より発出いたしました通知「介護保険の地域支援事業における在宅医療・介護連携推進事業の手引きについて」においては、在宅医療・介護連携の推進に向け、郡市区医師会による積極的な関与および都道府県医師会による支援のお願いを申し上げているところでございます。

こうした中、郡市区医師会における医療・介護連携のリーダーとなる先生に対し、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より、国立長寿医療研究センター・東京大学高齢社会総合研究機構「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」のオブザーバーとしてのご参加についてご案内をいただいております。今般、研修会主催側とオブザーバーの受け入れについて調整が済みしましたのでご連絡申し上げます。

今後、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より郡市区医師会に対して当該研修会についてご案内があることと存じますので、貴会におかれましても本内容をご了知いただき、貴会傘下の郡市区医師会および会員への周知方宜しくお願い申し上げます。

(添付資料)

- ・「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」郡市区医師会へのご案内について（依頼）
(平 27.3.16 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 理事長 通知)



平成 27 年 3 月 16 日

公益社団法人 日本医師会
会長 横倉 義武 様

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
理事長 住 野 勇



「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」
郡市区医師会へのご案内について（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
地域包括ケアシステムを構築するにあたって医療・介護の連携は郡市区医師会のリーダーシップが重要です。
残念ながら、郡市区医師会の動きは濃淡があり在宅医療への動機づけが重要と考え、今回、東京大学高齢社会総合研究機構「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」のオブザーバーとしてのご参加について、郡市区医師会に対してご案内させていただきたいと考えております。
当財団といたしましては、オブザーバーとしては郡市区医師会でのリーダーとなる先生が相当すると考えております。

つきましては、「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」オブザーバーとしてのご参加等の周知方、また当財団から郡市区医師会に対するご案内へのご理解、ご承諾のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

連絡先
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
TEL 03-5226-6266
FAX 03-5226-6269

在宅医療推進のための地域における 多職種連携研修会について



←概要紹介映像の視聴はこちらから



独立行政法人 国立長寿医療研究センター
National Center for Geriatrics and Gerontology



東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo



東京大学 医学部 在宅医療学拠点
Center for Home Care Medicine, Faculty of Medicine, The University of Tokyo

在宅医療・介護連携推進事業（厚生労働省資料より）

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、都市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を都市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携バス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実践を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

「在宅医療推進のための地域における 多職種連携研修会」開発の系譜

年	月	内容
2010	5	国立長寿医療研究センター大島伸一総長（当時）とプログラム開発構想について事前打ち合わせ
	7	在宅医療研修プログラム作成小委員会を組織（本研修会の基本骨格の検討をはじめとする実務全般を担当）
	12	多職種連携研修プログラム作成委員会を組織（領域別セッション開発を担当）
2011	1	在宅医療研修プログラム開発委員会を開催（大島伸一委員長）
	5	柏市第1回（試行プログラム）：8.0日版開催
2012	3	柏市第2回（動機付けコース）：2.5日版開催
	10	国立長寿医療研究センター「平成24年度厚生労働省多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業：都道府県リーダー研修」にて周知紹介
	12	「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」完成
2013	1	厚生労働省HPに「在宅医療推進支援ツール」として研修会運営ガイドが掲載
	10	国立長寿医療研究センター「平成25年度厚生労働省多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業：在宅医療・介護連携推進事業研修会」にて周知紹介
2014	2	全国15地域を招集した「在宅医療多職種研修会のモデル地域養成検討会」を開催
	4	厚生労働省「第1回都道府県在宅医療・介護連携担当者・アドバイザー合同会議」にて全国の都道府県に向けて周知紹介
2015	2	全国の都道府県職員を対象とした「全国在宅医療・介護連携研修フォーラム」を開催

2

開催地域の波及状況（年度別推移）

開催地域	主催	2011年	2012年	2013年	2014年
千葉県柏市	市 地区医師会 ※第1～2回は東大	●	●	●	●
千葉県松戸市	地区医師会		●		
東京都大田区	区在宅医療連携推進協議会 ※2012年度は地区医師会		● ※大森地区	● ※区全域	●
沖縄県浦添市	地区医師会 ※2013年度は県医師会		●	●	●
大阪市東淀川区 （府内より傍聴受入）	府 地区医師会			● ※この後、府内に伝播	
東京都北区	区在宅ケアネット			●	●
滋賀県（広域）	県 県医師会			●	●
福井県坂井地区	地区在宅ケアネット			●	●
奈良県大和高田市	地区医師会 市立病院			●	
東京都町田市	地区医師会			●	● ※独自 資料使用
神奈川県横須賀市	市 地区医師会			●	●
東京都（広域）	都医師会				●
東京都北多摩地区（広域）	北多摩地域医師会				●
東京都武蔵村山市	市 地区医師会				●
徳島県徳島市	市 地区医師会				●
東京都渋谷区	地区医師会				●
東京都日野市	市 地区医師会				●

一定数以上の地域で次年度以降も開催継続方針

※2011～2014年度まで、本方式の研修プログラムの枠組みの一部または全部を踏襲した地域のまとめ（事務局把握分のみ）

3

本研修会の主旨

- 事例検討などのグループワークを多用した多職種参加型の研修会を地域単位で開催することにより、医師を含む多職種の連携の機運を高め、地域包括ケアシステムを支える人材を養成する
- 多職種研修の実施は、市町村単位の連携推進の準備段階における郡市医師会・市町村行政・各職種団体の呼吸合わせ（チーム意識の醸成）の方法としても有効

○推奨される開催構造

- 郡市医師会と市町村による共催：
医師の参加を得るためには医師会の協力は必須
- 地域の関係団体による受講者推薦：
団体代表としての参加により責任感が生まれる
- 概ね同一市町村内の従事者を受講対象に：
地域包括ケアシステムの単位ごとの結束の強化



○推奨される内容

- 多職種によるグループワークを多用：
講義による学習は最小限度とする
- 医師である受講者は同行実習に参加（任意）：
体験型プログラムの教育効果は高い



多職種によるグループワーク（事例検討、地域資源マッピングなど）



同行実習（訪問診療）



地域単位の連携の機運の醸成

4

開催例 と 参加者の声

○実際の開催例

- 多職種研修1.5日＋同行実習2回（千葉県柏市など）

1日目（午後半日）	同行実習	2日目（終日）
在宅医療が果たすべき役割（講義、30分）	訪問診療同行（実習、2～3時間）	在宅医療の導入（講義、20分）
在宅医療を支える医療・介護資源（講義、20分）		訪問診療の実践と同行研修の意義（講義、20分）
医療・介護資源マップの作成（GW、40分）		在宅医が知っておくべき報酬や制度（講義、20分）
なぜIPW（専門職連携協働）が必要なのか？（講義、20分）	多職種同行（実習、2～3時間） ※訪問看護、ケアマネジャーなど	認知症（講義＋GW、100～120分）注
がん緩和ケア（講義＋GW、100～120分）注		在宅医療を推進する上での課題とその解決策（GW、90分）
		目標設定、発表（その他、20～30分）
		修了証書授与（その他、10分）

- 多職種研修1.0日＋同行実習（神奈川県横須賀市など）

2日目（終日）	同行実習
在宅医療が果たすべき役割（講義、30分）	訪問診療同行（実習）
なぜIPW（専門職連携協働）が必要なのか？（講義、20分）	
認知症（講義＋GW、100分）注	
がん緩和ケア（講義＋GW、100分）注	
在宅医が知っておくべき報酬や制度（講義、20分）	
訪問診療の実践と同行研修の意義（講義、20分）	
在宅医療を推進する上での課題とその解決策（GW、90分）	
目標設定、発表（その他、20～30分）	
修了証書授与（その他、10分）	

注：地域のニーズに応じて、摂食嚥下、栄養、リハビリテーション、褥瘡などに置換可能

実際の研修場面の見学をご希望の場合は、条件が合えば最寄りの開催地域／開催日程の研修会を傍聴いただく等の調整が可能です

○受講者の声（柏市第一期研修会を受講した医師の場合）

- もともと訪問診療を多数行っていた医師
「実践を系統的に振り返る機会になった」「診療所運営やスタッフの動きといった点で学びを得た」
- 臨時往診や少数の訪問診療は行っていた医師
「訪問診療の枠を拡大しつつ、外来とのバランスを考えていきたい」「午後から診療所を出て在宅へ行く」
- これまでほぼ往診をすることのなかった医師
「外来患者が通院困難となったときに訪問診療を提供したい」「（自分は往診をしないとしても）頼める相手（医師や多職種など）がいるということが分かった」

講師は自地域で調達する形でも他地域から招聘する形でも可



○研修開催事務局（開催予定の地域を含む）の声

- 「資料が揃っているのので、**一から作らなくて済む。**」
- 「全部を真似しなくても**一部だけでも活用できる**」
- 「（研修運営ガイドについて）関係団体を集めて研修会について**議論を始める材料として活用できそう**」
- 「『全国的にこういう流れがあるから』と言えるので地元関係者への説明がしやすい」
- 「多職種の会合に、**医師に出てきていただけるきっかけとして活用できそう**」

5

開催支援のためのツール

○支援ツール（１） 研修運営ガイド

- 国立長寿医療研究センター／東京大学高齢社会総合研究機構／日本医師会／厚生労働省による共同名義
- 研修開催事務局が用いる手順書としての活用を想定
- 開催日程に応じていくつかのパターンを例示

運営ガイドの内容



チェックリストを
一つずつ進めていくことで
研修会の企画・運営が
できるようになっています

【研修会開催に関する問合せ先】

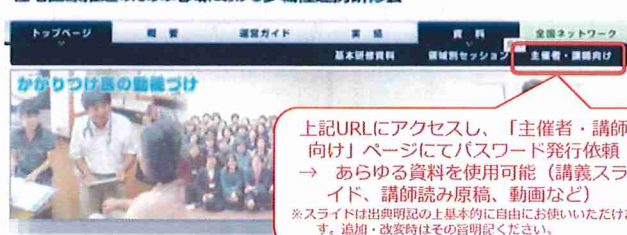
東京大学 高齢社会総合研究機構／医学部在宅医療学拠点（在宅医療研修担当）
Mail homecare_info@iog.u-tokyo.ac.jp Tel & Fax 03-5800-9542
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東大病院内 在宅医療学拠点
※ 問合せは原則メールにてお願いいたします。一度に多数のお問合せをいただいた場合、
即日返信が難しい場合がございます。

○支援ツール（２） ホームページ

- 講師となる方が活用できる資料（講義スライド、読み原稿、動画など）を収載
- 事務局使用様式（依頼状など）も一式収載
- テーマ別の120分構成のコンテンツ（講義＋グループワーク）を整備
→ 地域のニーズに応じて研修内容の**カスタマイズが可能**（認知症、がん緩和、摂食嚥下・口腔ケア、栄養、リハビリテーション、褥瘡など）

<http://chcm.umin.jp/education/ipw/>

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会



○支援ツール（３） 効果検証支援

- 東京大学高齢社会総合研究機構／医学部在宅医療学拠点では、評価アンケートを受講前／直後／1年後／2年後と実施（地域間比較が可能）
- 意識変化のほか、医師に対しては診療報酬の算定状況の変化を調査し、行動変容を追跡

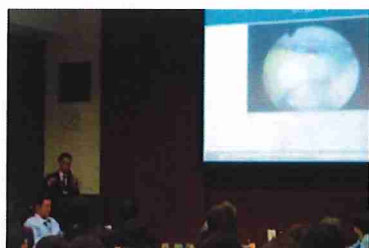
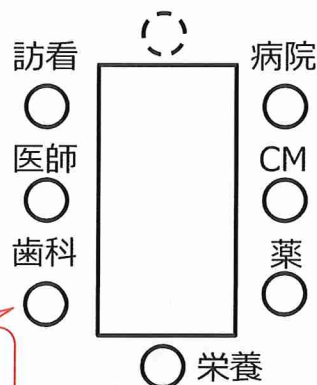
検証を希望される場合は左記問合せ先まで

テーマ別コンテンツの例：摂食嚥下・口腔ケア

構成例	時間
摂食・嚥下への対応の基本（講義）	40分
事例検討：在宅での摂食・嚥下障害～多職種で行う嚥下リハ～（GW）	70分
ミニレクチャー：口腔ケア（講義）	10分
合計	120分

グループ席配置例

ファシリテーター



参考：開催地域における受講者コメント抜粋

既存の研修と比べて「優れている／やや優れている」と回答した理由

※概ねいずれの開催地域においても「優れている／やや優れている」との回答が全体の7割以上、「変わらない」まで含めると9割以上であった。

カテゴリ	コメント
多職種によるディスカッションを評価する意見	- グループワークができたこと - グループワークが充実していた - グループワークを通して連携しやすくなった - たくさん他職種の方とコミュニケーションをとることができました - フラットな関係で地域の方と話せたことがよかったです - やはりグループワーク時間が増えた点 - 多職種の方の話が聞けて良かった - 笑い声もあり楽しかった。型破りな研修だった - がフランクに接することができたと思う。 - 職種が異なっているにも共有できる内容が入れ込んであったから - 他職種の人たちと話ができた - 他職種の方々とのディスカッションが多い - 他職種の方々と親しく話すことができ、今後も相談しやすくなった - 他職種の方と顔を合わせ、グループワーク、有意義でした - 多職種が参加していることがよいと思います - 多職種が集まっているので差があったが分かりやすかった - 多職種が対等な立場で臨め関わりを深められたこと - 形にとらわれず、各職種の本音と具体的な課題に対する対応を話し合うことができた - 地域の関係者と知り合いになれたこと - 地域の多職種とのディスカッション - 同じ課題を違う視点で検討できる点 - 多職種連携ができ、グループ毎に一体感があつた - グループワーク中心で協働の必要性を実感できる
特に医師の参加があったことを評価する意見	- グループディスカッションで医師の生の声が聞け、親近感が湧いた - 医師がいたこと - 医師の介入があったので - 多職種の方、特に医師と多くの話ができたこと - 地域の医師と一緒に講義を受けられた - 各グループに医師が参加していたことが素晴らしい - 医師を含めた多職種が集まりグループ討議ができた。通常、ケアマネ、訪問、CWが集まる程度だから - 薬剤師や医師とフランクに話ができ点
その他講義内容などに対する評価	- 市と医療（介護）は離れていると思っていたが同じ方向を向いていると分かってよかった - IPWの必要性をしっかりと学ぶことができたこと - コンパクトにまとまっていて内容も優れていると思います - 医師の講義が分かりやすい - 一歩踏み出せたと思う - 具体的な事例が多く、理解しやすかった - 講義の内容 - 今まで他の研修を受けたことがないので比較ができませんが、よい勉強をさせていただきました - 大変分かりやすくあらためて痛感することもありました - ポイントが絞られていてよかった - 全体の流れがスムーズだった - 講義とグループワークのつながりが良く、具体的事例を通して学習できた

© Centre for Home Care Medicine, Faculty of Medicine, the University of Tokyo All Rights Reserved.

8

研修会の詳細は、ホームページをご覧ください

<http://chcm.umin.jp/education/ipw/>

9

「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」オブザーバー参加可能研修会（2015.6.4.現在）

	地域	研修会名	主催	会場	開催日	オブザーバー 受入れ人数
1	千葉県柏市	在宅医療推進のための 地域における多職種連携研修会	柏市医師会・柏市	柏地域医療連携セン ター	1日目:9月13日(日) 2日目:10月18日(日)	15人
2	東京都北区	北区在宅ケアネット 多職種連携研修会	北区在宅ケアネット	北とぴあ	1日目:11月14日(土) 2日目:12月20日(日)	10人
3	神奈川県 横須賀市	在宅医療推進のための 地域における多職種連携研修会	横須賀市医師会・横須賀市	横須賀市医師会館	11月1日(日)	20人
4	滋賀県	在宅医療セミナー	滋賀県医師会・滋賀県	草津総合病院	10月4日(日)	20人
5	沖縄県浦添市	在宅医療推進のための 地域における多職種連携研修会	浦添市医師会	浦添市社会福祉セン ター	第1回:9月27日(日) 第2回:2月調整中	30人
6	東京都大田区	かかりつけ医スキルアップ研修	大田区在宅医療連携推進協議 会	調整中	調整中	調整中